

禁 転 載 複 製
当 日 配 付

令和 7 年度 シャッター施工技能検定

2 級 学科試験問題

1 試験時間 1 時間 40 分

2 問題数 50 題 (A 群(真偽法)25 題、B 群(多岐択一法)25 題)

3 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、試験問題の表紙(この表紙)以下はめくらないこと。
- (2) 答案用紙に、試験開始の合図の後に、受検番号及び氏名を記入すること。
- (3) 試験開始の合図で始めること。
- (4) 答案用紙へ解答する際は、鉛筆又はシャープペンシル(HB 又は B のもの)を使用し、答案用紙に記載されている注意事項に従い、所定の解答欄に解答すること。
- (5) 試験中は、問題用紙以外の用紙にメモしたものや参考書等を参照することを禁止する。
- (6) 問題用紙を綴じてあるホッチキスは外さないこと。
- (7) 試験中は、携帯電話、スマートフォン及びウェアラブル端末等(電卓機能の使用を含む。)の使用を禁止する。
- (8) 机の上には、受検票、筆記用具及び飲料以外のものは置かない。
- (9) 私語は禁止する。
- (10) 試験中に質問があるときは、黙って手を挙げること。ただし、試験問題の内容及び漢字の読み方等に関する質問には答えられません。
- (11) 試験終了時間前に解答ができあがった場合には、退出の可能な時間帯(試験開始 60 分経過後から試験終了 10 分前の間をいう。)に限り、黙って手を挙げて、係員の指示に従うこと。
- (12) 試験中に気分が悪くなったり、手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従うこと。
- (13) 試験終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従うこと。

【A群(真偽法)】

重量シャッターに関する各問いの命題について、正しい場合は○、誤っている場合は×を、答案用紙に記載されている事項に従い、該当するところにマークしなさい。

なお、各問いの中で表記されている「協会」とは、(一社)日本シャッター・ドア協会のことを指す。

問 1

一般に、返り墨とは、本来、通り心墨として墨を打ちたい場所が、障害物があったり躯体の形状などにより打てない場合に、通り心墨の位置より一定の距離を離して打つ墨のことである。

問 2

協会の定める重量シャッター施工基準では、軸受部を直接 ALC 板に固定する場合は、ALC 用のアンカーを使用しなければならないとされている。

問 3

協会の定める重量シャッター施工基準では、巻取りシャフトは、巻取りシャフトの軸心が、シャッター心又はまぐさのどちらかと平行になるように取付けるとされている。

問 4

協会の定める重量シャッター施工基準では、シャフトスプロケットを取付ける際に、先にセットボルトの締め付けを行ってから、セットキー(頭付勾配キーに限る。)を叩き込むとされている。

問 5

協会の定める重量シャッター施工基準では、両軸式における開閉機取付け台は、軸受部の外側又は内側に水平に取付けるとされている。

問 6

協会の定める重量シャッター施工基準では、ローラチェーンの張り具合は、シャッターカーテンの取付ける前にローラチェーンに張力が働いていない状態で確認する。

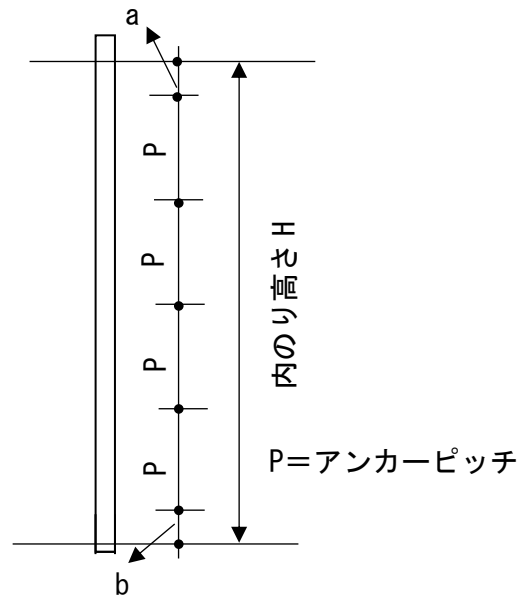
問 7

協会の定める重量シャッター施工基準では、スラットのガイドレールに呑み込む寸法は、駆動側の方が従動側の方より大きくなるように取付けるとされている。

【A群(真偽法)】

問 8

協会の定める重量シャッター施工基準では、下記の図に示すガイドレールの取付けの際のアンカーピッチ P の寸法が 500 ミリメートルの場合、下記の図に示す a と b の寸法はそれぞれ 300 ミリメートル以下とされている。



問 9

一般に、二次側電気に係る耐熱電線の接続部分には、定められた規格に適合した耐熱性能を有するテープを用いて耐熱の処理を行い、さらに電気絶縁用のポリ塩化ビニル粘着テープを用いて絶縁の処理を行わなければならないとされている。

問 10

一般に、直流アーク溶接機によるアークは、交流アーク溶接機によるアークより安定していないとされている。

問 11

一般に、六角穴付きボルトとは、ボルトの頭部分の中心に、正六角形の穴が開いているボルトで、穴の部分に六角棒スパナという棒状の工具を差し込んで締める仕組みのものである。

問 12

一般に、金属拡張アンカーによるあと施工アンカー工法では、アンカーに必要な埋め込みの深さは、躯体のコンクリートの部分での深さにモルタルやタイルなどの仕上げ部分の深さを加えたものとされている。

【A群(真偽法)】

問 13

協会の定める重量シャッター施工基準では、まぐさの取付け公差に係るたわみとは、まぐさの上下の方向における曲がりの程度をいい、まぐさの取付け公差に係るそりとは、まぐさの水平の方向における曲がりの程度をいうとされている。

問 14

一般に、KY 活動の手法の一つとされる現地 KY(危険予知活動をいう。)とは、その進め方が「危険のポイント」及び「行動目標」の 2 段階とされ、最後にワンポイント唱和で終わる簡単なものとされている。

問 15

協会の定める安全衛生作業標準では、うまなどの足場板架台を脚立の代わりに使用してはならないとされている。

問 16

協会の定める安全衛生作業標準では、作業を行う際には、要求性能墜落制止用器具は、いつでも使用できるよう常に準備していなければならないとされている。

問 17

製造メーカーによる業界団体の自主的な基準では、要求性能墜落制止用器具の有効期限又は使用期限について、ロープ、ランヤード及びストラップは使用開始から 4 年、それ以外については使用開始から 5 年とされている。

問 18

協会の定める安全衛生作業標準では、作業に要する電源のための電線を分電盤に接続する場合は、他の機器の電源として接続されている電線がなく開放されている開閉器の二次側に、電線を正しく堅固にはさみ込み、接続が完了したら保護カバーを取付け、行き先の記された表示札を開閉器に取付けるとされている。

問 19

一般に、作業に係る機器に接地が行われていれば、大地との間にわずかに抵抗があった場合で、落雷などで大電流が流れた際に機器に触れたとしても、感電するおそれはないとされている。

問 20

協会の定める重量シャッター技術基準では、袖扉連動式防火シャッターにおいては、危害防止用連動中継器、連動スイッチ、袖扉側の自動閉鎖装置及びタイマーの相互の配線は、耐火ケーブルが使用されている。

【A群(真偽法)】

問 21

協会の定める重量シャッター技術標準では、可動レール式防火シャッターは、可動レール式防火シャッターが開放されている際には、その開口部を大きく確保できることから、その点がメリットであるとされている。

問 22

協会の定める重量シャッター技術標準では、急降下停止装置は、主に開閉機のブレーキ装置の不具合による巻取りシャフトの回転の異常を検知した際に、巻取りシャフトの回転を直ちに停止させ、シャッターカーテンの急降下を防止するものとされている。

問 23

協会の定める重量シャッター技術標準では、耐風圧性能が求められる場合は、スラットが風圧によりガイドレールから抜け出ることを防止するために、耐風フックをガイドレールに設ける。

問 24

協会の定める重量シャッター技術標準では、遮煙性能を有する防火シャッターに設けられる遮煙材には、不燃、準不燃又は難燃材料のものが用いられる。

問 25

建築基準法関係法令では、随時閉鎖式の防火設備については、感知器、連動制御器、開閉機、自動閉鎖装置及び予備電源を備えたものであることと定められている。

【B群（多岐択一法）】

重量シャッターに関する各問いの命題について、正解と思う記号を一つだけ選んで、答案用紙に記載されている事項に従い、該当するところにマークしなさい。

なお、各問いの中で表記されている「協会」とは、（一社）日本シャッター・ドア協会のことを指す。

問 1

協会の定める重量シャッター施工基準における、取付け墨に関する記述として、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 取付け墨には、シャッター心の墨は含まれない。
- ロ 取付け墨には、ガイドレール面の墨は含まれない。
- ハ 取付け墨には、軸受部の外面の墨は含まれる。
- ニ 取付け墨には、内のり高さHの上端の墨は含まれる。

問 2

協会の定める重量シャッター施工基準における、片軸式の軸受部の取付け方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 軸受部の出入りの調整は、座金又は板材等を介して行う。
- ロ 軸受部を溶接する際には、軸受部の位置がずれないようにクランプ等で軸受部を固定させてから行う。
- ハ 軸受部は、シャッター心に直角に取付ける。
- ニ 軸受け(ベアリング)は、駆動側の軸受部に取付ける。

問 3

協会の定める重量シャッター施工基準における、巻取りシャフトの取付け方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 片軸式の場合は、巻取りシャフトがジョイントボスから抜けないように固定する。
- ロ 両軸式の場合は、駆動側では、巻取りシャフトを軸受部に掛ける前に、軸首にはカラー及び軸受け(ベアリング)を、先にカラー、続いて軸受け(ベアリング)の順で差込んでおく。
- ハ カラーは、軸受け(ベアリング)との間にすき間を設け、又はシャフトフランジと軸受け(ベアリング)の両方の側にすき間を設けて、止めねじを締め込む。
- ニ カラーは、軸受け(ベアリング)に密着させ、又はシャフトフランジと軸受け(ベアリング)の両方に密着させて、止めねじを締め込む。

【B群（多岐択一法）】

問 4

協会の定める重量シャッター施工基準における、シャフトスプロケットの取付け方法に関する記述として、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- イ セットキー(頭付き勾配キーに限る。)を十分に叩き込むことにより、シャフトスプロケットと軸受け(ベアリング)との密着性を高めることができる。
- ロ セットボルトを十分に締め付けることにより、シャフトスプロケットが横ずれするのを防止することができる。
- ハ セットキー(頭付き勾配キーに限る。)は、必要に応じて切断し又は研削して所定の寸法に合わせる。
- ニ シャフトスプロケットの心と開閉機スプロケットの心の通りを合わせるには、開閉機スプロケットの位置をずらして調整する。

問 5

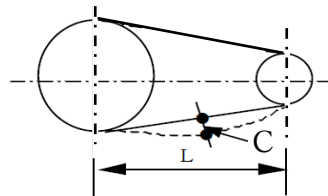
協会の定める重量シャッター施工基準による、片軸式における開閉機の取付け方法に関する記述として、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 開閉機を取付ける際は、ボルトとナットの 1 組につき、ボルト頭側に平座金 1 枚、ナット側に平座金 2 枚を使用する。
- ロ 開閉機を取付ける際は、ボルトとナットの 1 組につき、ボルトの頭側に平座金 1 枚、ナット側に平座金 1 枚とばね座金 1 枚を使用する。
- ハ 開閉機を取付ける際は、ボルトとナットの 1 組につき、ボルトの頭側にばね座金 1 枚、ナット側に平座金 1 枚を使用する。
- ニ 開閉機を取付ける際は、ボルトとナットの 1 組につき、ボルトの頭側に平座金 1 枚、ナット側に平座金 1 枚を使用する。

【B群（多岐択一法）】

問 6

協会の定める重量シャッター施工基準において、下記の図に示すシャフトスプロケットと開閉機スプロケットの軸間距離 L に対するローラチェーンを取付ける際のたるみ量 C の数値として、最も適切なものは、次のうちのどれか。



- イ 軸間距離 L に対して 3 パーセント以上 6 パーセント以下の範囲
- ロ 軸間距離 L に対して 3 パーセント以上 5 パーセント以下の範囲
- ハ 軸間距離 L に対して 2 パーセント以上 5 パーセント以下の範囲
- ニ 軸間距離 L に対して 2 パーセント以上 4 パーセント以下の範囲

問 7

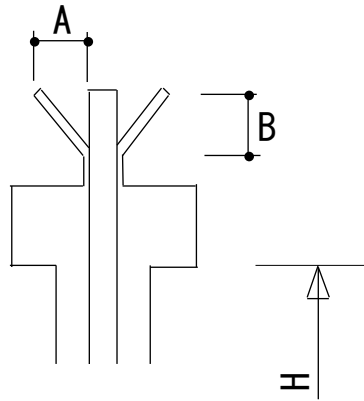
協会の定める重量シャッター施工基準における、シャッターカーテンの取付け方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 両端の吊り元を固定するボルト及び中央部の吊り元を固定するボルトの締め付けは、他の吊り元を固定するボルトより強固に行う。
- ロ 吊り元を固定するボルトは、中央及び両端の吊り元から先に締め付けを行う。
- ハ シャッターカーテンの横ずれをなくすためには、吊り元の端部を折り曲げるか、又は最上部のスラットに接する吊り元の下端の部分に、横ずれ防止用の金具を取付ける。
- ニ スラット相互の横ずれをなくすためには、スラットの端部を折り曲げるか、又はスラットの端部に端金物を取付ける。

【B群（多岐択一法）】

問 8

協会の定める重量シャッター施工基準において、下記の図に示すガイドレールの取付けの際に呑み込み口を広げる寸法に関して、最も適切なものは、次のうちのどれか。



- イ Aは20ミリメートル以上25ミリメートル以下とし、Bは50ミリメートル以上55ミリメートル以下とする。
- ロ Aは20ミリメートル以上30ミリメートル以下とし、Bは50ミリメートル以上60ミリメートル以下とする。
- ハ Aは25ミリメートル以上30ミリメートル以下とし、Bは55ミリメートル以上60ミリメートル以下とする。
- ニ Aは25ミリメートル以上35ミリメートル以下とし、Bは55ミリメートル以上65ミリメートル以下とする。

問 9

協会の定める重量シャッター施工基準における、二次側電気に係る配線、結線、接続又は調整等の方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 電線の接続に当たっては、不十分な締結の状態などにより電気抵抗を増加させることのないようにする。
- ロ 電線の接続に当たっては、接続箇所には張力をかけないようにする。
- ハ 電線相互の接続を裸圧着スリーブにより行う場合は、電気絶縁用のポリ塩化ビニル粘着テープを使用しない。
- ニ 露出して電線相互を接続する場合は、アウトレットボックスを使用し、圧着スリーブ等の接続器具を用いて接続する。

【B群（多岐択一法）】

問 10

協会の定める溶接作業基準における、溶接工法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ アーク溶接は、溶接棒と母材の間に交流又は直流の電流でアークを発生させ、その際のアークによる高熱により母材を溶接する方法であるとされている。
- ロ アーク放電による熱は、約 5,000℃～7,000℃の温度になる。
- ハ 手溶接に使用する溶接機には、交流アーク溶接機と直流アーク溶接機がある。
- ニ 軸受部を躯体に固定する際の溶接機器の設定条件について、溶接棒の径は2.3 ミリメートル、溶接電流は 80 アンペアから 140 アンペアとする。

問 11

一般に、ボルト等に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ ボルトとは、外側に溝のある雄ねじのことをいう。
- ロ ナットとは、内側に溝のある雌ねじのことをいう。
- ハ ねじの直径とは、ねじ山のある軸部分の直径をいう。
- ニ ねじにおいて、ねじ山とねじ山の間隔をねじの呼びという。

問 12

一般に、金属拡張アンカーに関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 金属拡張アンカーによるあと施工アンカー工法は、先付けアンカー工法に比べて、アンカーの位置決め点では容易である。
- ロ 金属拡張アンカーによるあと施工アンカー工法は、先付けアンカー工法に比べて、構造体との固定状態などの強度の面で優れている。
- ハ 金属拡張アンカーによるあと施工アンカー工法では、躯体のコンクリートに専用のドリルにて穿孔を行ってからアンカーを挿入し、その後ピンを打ち込む又はナットを締め付ける。
- ニ 金属拡張アンカーによるあと施工アンカー工法は、アンカーの先端を外部側に押し広げることにより、コンクリートに側圧を加えて保持力を確保するものである。

【B群（多岐択一法）】

問 13

協会の定める重量シャッター施工基準における、軸受部の取付け公差に関する記述として、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 水平度は、取付け公差の要件に含まれない。
- ロ よりは、取付け公差の要件に含まれない。
- ハ 倒れは、取付け公差の要件に含まれない。
- ニ 出入りは、取付け公差の要件に含まれない。

問 14

一般に、KY 活動の方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ KY 活動とは危険予知活動のことをいい、KY 活動により注意力を喚起し、作業の留意点を決定する。
- ロ KY 活動は、労働災害の発生原因を先取りし、作業員の不安全行動による労働災害の防止のためには欠かせないものである。
- ハ KY 活動での一般的な手法では、グループとして実行可能な行動目標を設定する。
- ニ KY 活動は、作業の計画や作業の手順を確認する段階で実施する。

問 15

一般に、足場の設置及び使用の方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 足場は、組立て足場と吊り足場の 2 種類に分けられ、組立て足場は、地表から組立てていく足場で、わく組足場、クサビ緊結式足場、単管足場などが組立て足場に該当する。
- ロ 組立て足場には、現在では安全面を考慮して、鋼製のパイプが主に使用されている。
- ハ ローリングタワーや高所作業車は、移動式足場といわれる。
- ニ ビテイ足場といわれるものは、本足場のうちのわく組足場のことをいい、ビケ足場といわれるものは、手すりにクサビが付いていてそのクサビを支柱のこまに挿し込んで組立てられるもので、クサビ緊結式足場のことをいう。

【B群（多岐択一法）】

問 16

協会の定める溶接作業基準における、アーク溶接の溶接機の取扱い方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 溶接機の定格使用率とは、溶接機を連続で 20 分のうち何分使用できるかの目安であり、溶接機は連続して使用されると本体が過熱して故障の原因となるため、定格使用率を守って使用する必要がある。
- ロ 溶接用ケーブルの導線用の太さは、溶接電流の大きさと溶接用ケーブルの長さによって決定される。
- ハ 溶接用ケーブルに許容電流を超える過大な電流が流れると、過熱して絶縁が劣化し漏電の危険が生じたり、絶縁被覆が燃えたりするおそれがある。
- ニ 溶接機に設けられている自動電撃防止装置は、感電災害を防止するため、アークを切った後に溶接棒と母材の間の電圧を自動的に危険の無い 30 ボルト以下の電圧まで低下させ、次の起動時には所定の電圧が得られるようにする装置である。

問 17

協会の定める安全衛生作業基準における、保護具の着用方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 遮光保護具には、「遮光面」と「遮光めがね」の 2 種類があり、溶接、熱切断などの種類及び使用条件によって、作業に適合するものを選択する。
- ロ アーク溶接の作業時は、防じんめがね、ゴム手袋及び防じんマスクを使用する。
- ハ 金属拡張アンカーの穿孔の作業時は、保護帽、防じんめがね及び安全靴等の保護具を着用する。
- ニ 高さが 2 メートル以上の作業床で、手すり及び中柵等の足場用墜落防止設備が設けられていない場合は、要求性能墜落制止用器具を使用しなければならない。

【B群（多岐択一法）】

問 18

協会の定める安全衛生作業標準において、感電防止措置として、活線作業が行われることのないよう電気に係る作業を始める前に、当該作業を行う者本人が実施すべきことに関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 当該作業に係る機器の電源として接続されていると思われる分電盤の開閉器が、他の機器の電源として接続されているものでないことを確認する。
- ロ 現場の管理者に依頼して、当該作業に係る機器の電源として接続されている分電盤の開閉器を開放させて、当該作業に係る機器の電源を遮断する。
- ハ 当該作業中に、当該分電盤の開閉器が投入されることのないよう関係者に通知する。
- ニ 当該分電盤のところに監視人を配置する、又は当該作業中であることが第三者に容易にわかるよう注意札を掲示するなどの措置を講じる。

問 19

協会の定める安全衛生作業標準における、感電防止措置の実施方法に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ アーク溶接機や電動工具は接地する。
- ロ 電撃による傷害には個人差があるが、100 ミリアンペアを超えると感電死するおそれがある。
- ハ 交流アーク溶接機用自動電撃防止装置及び溶接ホルダー等は、JIS により規格化されたものを使用する。
- ニ アーク溶接の作業を行っている時以外は、導線用の溶接用ケーブルをコネクタから外し、溶接ホルダーを絶縁物に掛け、溶接機の電源を遮断する。

問 20

協会の定める重量シャッター技術標準における、袖扉連動式防火シャッターに関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 袖扉連動式防火シャッターは、防火シャッターのガイドレールと防火扉(袖扉という。)のたて枠を一体化した固定中柱を必要とせず、その固定中柱があることの不都合を解消するものである。
- ロ 袖扉連動式防火シャッターは、防火扉(袖扉という。)の先端に防火シャッターのガイドレールが組み込まれていて、火災時に防火扉(袖扉という。)が閉鎖した後に、防火シャッターが防火扉(袖扉という。)の先端のガイドレールを利用して降下する構造のものである。
- ハ 袖扉連動式防火シャッターは、防火設備として、国土交通大臣の認定が取得されたものである。
- ニ 袖扉連動式防火シャッターは、主として外壁の開口部に設けられるものである。

【B群（多岐択一法）】

問 21

協会の定める重量シャッター技術標準における、可動レール式防火シャッターに関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 可動レール式防火シャッターは、電動又は手動により開閉できる。
- ロ 可動レール式防火シャッターは、中柱を天井内又はケース内に収納させることができるが、ガイドレールを天井内又はケース内に収納させることはできない。
- ハ 可動レール式防火シャッターは、日常的に開閉されることのない防火専用のものとして使用されることが多い。
- ニ 可動レール式防火シャッターは、防火設備として大臣認定の取得されたものである。

問 22

協会の定める重量シャッター技術標準における、複軸式のものに関する記述として、最も適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 複軸式のものは、シャッターカーテンを収納させるための天井内又はケース内の奥行きスペースを、小さくすることができるメリットがある。
- ロ 複軸式のものの巻取りシャフトは、ガイドレールの呑み口の側に設けられ、副軸シャフトは開閉機の側に設けられる。
- ハ 複軸式のものの副軸シャフトは、シャッターカーテンをガイドレールに導くために設けられている。
- ニ 複軸式のものを、随時閉鎖式の防火シャッターとして設けることはできない。

問 23

協会の定める重量シャッター技術標準における、急降下防止装置に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 急降下制動装置は、巻取りシャフトの回転の異常を検知した際に、巻取りシャフトの回転を制動して回転数を一定に保ち、シャッターカーテンの降下速度を減速させて、急降下を防止するものである。
- ロ 急降下停止装置は、駆動側に設けられ、従動側には設けられない。
- ハ 急降下制動装置は、急降下停止装置を設けることのできない場合に用いられる。
- ニ 急降下停止装置及び急降下制動装置は、日常的に開閉されることのない手動式のものに設けられることはない。

【B群（多岐択一法）】

問 24

協会の定める重量シャッター技術標準における、障害物感知装置に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 障害物感知装置は、日常的に開閉が行われる電動式のものに設けられる。
- ロ 障害物感知装置で接触感知式の場合は、シャッターカーテンの降下時に座板の感知する部分が人や物に接触すると、シャッターカーテンの降下を自動的に停止させ又は自動的に停止させた後直ちに反転上昇させて停止させることができる。
- ハ 障害物感知装置が働きシャッターカーテンの降下が停止した後、人が移動し又は物が除かれたら、シャッターカーテンは自動的に再降下する。
- ニ 障害物感知装置で接触感知式の場合、座板の感知する部分が人や物に接触したことによりシャッターカーテンの降下が自動的に停止し、座板の感知する部分が人や物に接触したままの状態において、押しボタンスイッチのシャッターを開放させるボタンを操作した際は、シャッターカーテンは上昇する。

問 25

労働安全衛生法関係法令における、足場に関する記述として、最も不適切なものは、次のうちのどれか。

- イ 足場の組立て及び変更の作業に係る業務（地上又は堅固な床上における補助作業の業務を除く。）は、特別教育を必要とする危険又は有害な業務に含まれるが、足場の解体の作業に係る業務は特別教育を必要とする危険又は有害な業務に含まれない。
- ロ わく組足場の場合に、妻面に係る部分を除いて、墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、足場用墜落防止設備が設けられていなければならない。
- ハ 足場における高さが2メートル以上の作業場所には、一側足場の場合を除いて、作業床を設けなければならない。
- ニ 足場板と脚立又は足場板とうまなどの足場板架台を用いた足場で、墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、手すり柵や手すり及び中棧等の足場用墜落防止設備が設けられておらず、要求性能墜落制止用器具等を安全に取付けるための設備等も設けられていない場合は、作業床の高さは2メートル未満でなければならないとされている。

以上